

あとかき

令和6年（2024年）11月、2年後の令和8年（2026年）9月に札幌管区気象台の前身となる「札幌測候所」の礎として、札幌農学校教師ウィリアム・ホイラーにより気象観測を開始してから150年の節目を迎える。このことを記念して、これまでの歴史と北海道における気象業務や防災機関としての取組を多くの方に知っていただくことを目的として、札幌管区気象台に管区部課長連絡会メンバーを委員とした「札幌管区気象台150周年記念事業実行委員会」を立ち上げた。

同委員会において、札幌気象百五十年史の発刊に向けた作業チーム「札幌気象百五十年史編纂チーム」を結成し、事務局および各課から選出された編纂メンバーが中心となって執筆を行った。

＜札幌気象百五十年史編纂メンバー＞

総務課	中野 雅裕 （令和6・7年度） 堀 玲子 （令和8年度）
会計課	檜山 大 （令和6・7年度） 西村 亜希子 （令和8年度）
業務課	青木 康友 （令和6年度） 中山 寛 （令和7年度） 服部 博和 （令和8年度）
地域防災推進課	田辺 順一
予報課	松木 博幸
観測整備課	義煎 聡 （令和6年度） 佐藤 哲也 （令和7年度） 横山 慶久 （令和8年度）
地震火山課	平山 達也
地域火山監視・警報センター	吉川 章文
事務局	森井 敦司 （令和6年度） 辻 輝之 （令和7・8年度）

※年度記載のない職員は、令和6年度～令和8年度在籍

札幌気象百五十年史の執筆に向けた方向性として、実行委員会において昭和51年（1976年）9月刊行の『札幌気象百年史』に記載されている記録以降の50年間における業務を中心にまとめることとした。

各課編纂メンバーの執筆分担は、『札幌気象百年史』の目次項目を元に現在の業務に置き換え、令和7年（2025年）6月5日の編纂員会において方向性を改めて確認し、各課の所掌業務ごとに執筆項目を割り振りするとともに、各課横断的な項目については事務局で執筆することとし、期限を同年（2025年）12月10日に設定して作業を開始した。

各課で執筆された原稿は、事務局である業務課（課長補佐：辻輝之）で確認後、刊行物を所管する地域防災推進課（課長補佐：樋川幸夫）の協力を得て確認を行い、札幌管区気象台150周年記念事業実行委員会に諮って刊行に至った。

執筆期間が約半年と短い中で、各メンバーはどのような資料をもとに執筆すればよいのか頭を悩ませたが、前年度に本庁が発刊した『気象百五十年史』や『気象官署履歴』、『札幌通信』の内容を参考にするなどして、脱稿にこぎつけることができた。

編纂作業にあたっては、技術的な進歩により大きく変貌した昭和51年（1976年）以降の各種業務における経緯などを後世に可能な限り残し、引き継いでいくことに努めてきたが、過去資料の誤りや読み間違いがないとは言い切れない。

札幌市内で気象を観測して150年を迎えた。本『札幌気象百五十年史』が、札幌管区気象台の歩みを振り返る一助となれば幸いである。

これからも、観測したデータを元に防災気象情報を発表し、防災行動がとれるよう市民生活に寄り添いながら、誠実に取組を重ねていくことをここに記して、あとがきとしたい。

札幌管区気象台150周年記念事業実行委員会
事務局 辻 輝之